

DX 推進の取り組み

背景

弊社を取り巻く環境は、テクノロジーの進化によって急速に変化しています。デジタル技術は、生産プロセスの効率化やお客様との関係性、新しい価値の創造において不可欠であり、競争力の源泉となります。この認識に基づき、松栄堂はデジタル技術を活用してさらなる競争力を高めていきます。

経営理念

変わらないために変わり続ける

ビジネスモデルの方向性

経営理念を実現するために以下の3つの方向性で取り組みます。

【仕入】わかりやすく確実な仕入れ

- 正確な在庫情報に基づく確実な仕入業務の構築
- データドリブン、新素材・新技術情報に基づく商品開発

【製造】お客様に安心してお使いいただける商品を、安全を確保した製造現場で

- 生産計画に基づく柔軟で迅速に対応できる生産体制の構築
- 製造、生産に関わる情報を適正に管理し、最新化します。
- 人とロボットが一緒に働く安全な香場を目指します。

【販売】お客様に安心してご利用いただくためにスタッフの安全を確保する

- 従業員がお客様と一緒にかつ平等に体験価値を創る「価値共創」を実践します。
- 全社の非対面顧客対応業務を集約するコンタクトセンターを設置し、お客様のサポート体制を充実させます。

DX 推進体制

- 経営計画室内に全社横断型のDX推進事務局を設置し、経営者直轄で施策を統括します。
- 基幹業務（販売・製造・流通）、支援業務、それぞれにDX推進リーダーを配置し、現場実装を推進します。
- DX推進委員会（経営層、DX推進事務局、DX推進リーダー）が1年ごとに進捗をレビューします。

人材育成

当社のデジタル人材はローコードツールをベースにシステムを開発していきます。「観察」「状況判断」「意思決定」「実行」のOODAループを回し課題解決を実践します。またデジタルスキル標準を参照し、必要な能力開発を定義し促進します。

事業インフラの環境整備

全ての管理職、全ての職場にPC端末を設置し必要な情報へ迅速にアクセスできる環境を構築しています。また社外で活動する社員には各種端末から社内ネットワークへアクセスできる環境を整備し、情報活用の拡大を図ります。

- データ基盤の整備**
基幹システム、連携システム、ローコードツールを用いて効率的な業務を行うため、データ基盤を整備します。この基盤はDX戦略の柱を実現する中核的な要素です。
- 業務システムの整備**
基幹システムとローコードツール、基幹システムを補完する連携システムとのシームレスな連携を実現し、生産性と提供価値の向上に貢献します。
- 安全なネットワーク環境とガバナンス体制**
社内ネットワーク環境のセキュリティ対策を常に最新の状態に保つことで、安定した事業運営を支えます。さらに、顧客データの適切な管理により、顧客体験の向上と同時に信頼性の確保を実現します。

KPI（主要目標）

- 売上高：経済成長率を上回る年間売上高目標の設定と達成状況の確認
- 新規顧客獲得数：新規顧客獲得数の測定と市場開拓の進捗
- 棚卸在庫評価額：前年比2%削減
- 生産安定指標：欠品登録件数の測定と前年対比5%減
- データドリブン：商品改良件数・新商品開発件数の測定
- グループウェア利用状況：満足度5%向上

経営者メッセージ

当社は300年ほど前、京都に創業して以来、今日まで香づくり一筋に歩んでまいりました。現在、社会や市場の変化はかつてないスピードで進んでいます。

私たちは、DX推進を通じて企業の競争力を強化し、企業テーマ「香りある豊かな暮らし」を提供し続けます。この取り組みは、単なる業務のデジタル化にとどまらず、企業の未来を築くための基盤であり、すべての従業員が一丸となって取り組むべき課題です。

松栄堂の経営理念である「変わらないために変わり続ける」を実践するためにデジタル技術の活用は不可欠です。これからの競争環境において、デジタル技術を最大限に活用し、お客様に新たな価値を提供することが求められています。

この取り組みを通じて、松栄堂はさらなる成長を遂げ、社会に貢献し続ける企業でありたいと考えています。

2026年2月吉日

株式会社 松栄堂

代表取締役社長 畑 元章



2026年8月、松栄堂は経済産業省が定める「DX認定制度」に認定されました。

DX認定制度とは、デジタル技術による社会変革に対して経営者に求められる事項を取りまとめた「デジタルガバナンス・コード」に対応し、DX推進の準備が整っていると認められた企業を国が認定する制度です。